

2014.8.8 提出 視察報告書 町田市議会 個人視察（保守連合） 吉田つとむ
視察先 酒田市 本間美術館
実施日 平成 26 年 8 月 1 日

施設について

戦後昭和 22 年、全国に先駆けて開館した本間美術館は、荒廃した人心を励まし芸術文化の向上に資することを目的として、本間家に伝わる庄内藩酒井家・米沢藩上杉家など東北諸藩からの拝領品を中心に展示活動を始めました。当時、特に雛人形展では露天商も出るほどの賑わいを見せたといえます。以来、棟方志功や中川一政をはじめ優れた作家たちの展覧会を数多く催すとともに、昭和 43 年には、創立 20 周年を記念して伊藤喜三郎氏設計の美術展覧会場を建設し、多くの篤志家からの美術品のご寄贈や蒐集活動を通して、近世から現代に至る美術作品の展示を充実させてまいりました。（公益財団法人 本間美術館の HP の冒頭部分を転載しました）

所見

まず、「本間家」と言えば、「本間様には及びはせぬが、せめてなりたや殿様に・・・」と称されたと言います。今の山形県酒田市が本拠地で、戦前まで全国最大の大地主であったことからのことのようにです。

北前船の交易で巨大な富を築き、人を集め、延々と事業を継続してきた一方で、各地を文化とも交流し、文化財も収集しています。

その本間家が造ったのが「本間美術館」ですが、庭園の「鶴舞園」、迎賓館としての「清遠閣」と三者一体の構成で造られていました。

酒田市に行くなら、この「本間美術館」を見ないでは意味が半減するとの考えで、当初の予定に加えて視察先に入れたものです。

「本間美術館」で見せていただいたものは、展覧会場の「美術館の動物たち」と言う企画展示でした。教科書でも見たような歴史を超えた絵画や造形に関する名品が並び、しかも、具象的な作品だけでなく、抽象的、あるいは鳥獣戯画風の漫画作品もありました。ある意味、金に糸目はつけないで収集したものかもしれませんが、後世に残る作品を収集、展示することは有徳な人や「家」が無くては果たせないものでしょう。

借り物による持ち回りの企画展示展でなく、自前の作品を季節や時期で展示できるのが、この「本間美術館」ではないでしょうか。まさに、「本物」を見させていただきました。

果たして、町田市の施設ではどういう視点で作品が展示されているのでしょうか。改めて、振り返りたいと思っています。

庭園の「鶴舞園」は、北前船の運送で使った重しの石材が利用されています。「本間家」の北前船で働く人たちの冬場の仕事を確保するために、それらの人を使ってこの庭園が造られたとのことであり、庭園の芸術性の価値とともに、権力者が徴用で造らせたものと異なった、文化の暖かさも伝わってきます。

その他、「清遠閣」には、「日本と中国の陶磁器」の展示が行われていました。美術館だけでなく、一連の施設にも、こうした芸術作品が展示されているのも、この「本間美術館」が一流、一級の証であると思いました。